

総合職試験等からの新規採用職員に対するアンケート 調査結果の概要

調査対象者 第53回国家公務員合同初任研修を受講した職員 781人
有効回答数 772人（回収率98.8%）

※ 以下の各問の欄の「N」は、それぞれの問に対する有効回答数

「法文系の職員」及び「理工・農学系等の職員」の試験区分は以下のとおり（不明2人）

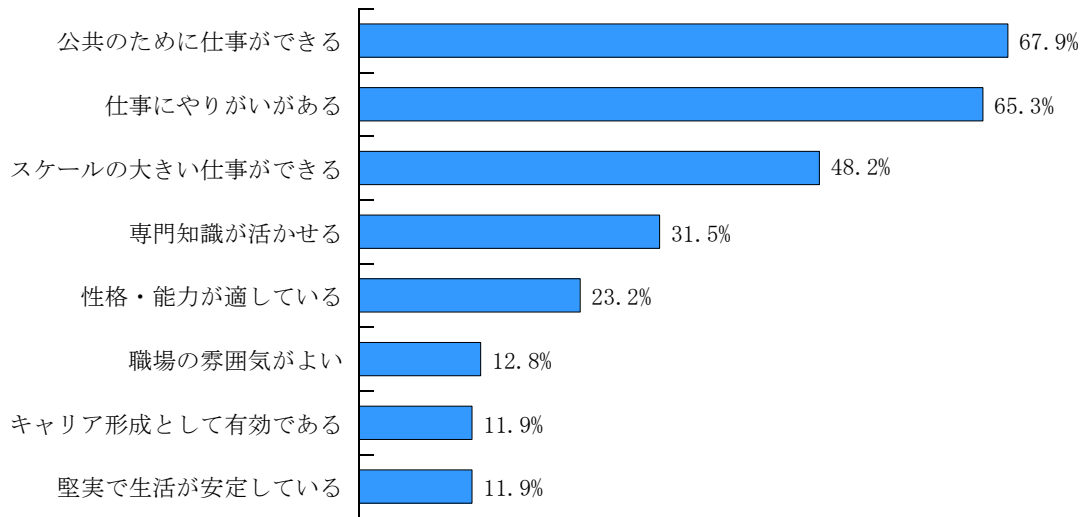
「法文系の職員」（回答数405人）

- ・総合職試験：「行政」「政治・国際」「法律」「経済」「人間科学」「教養」「法務」
- ・総合職試験以外の試験：「事務」「事務系」

「理工・農学系等の職員」（回答数365人）

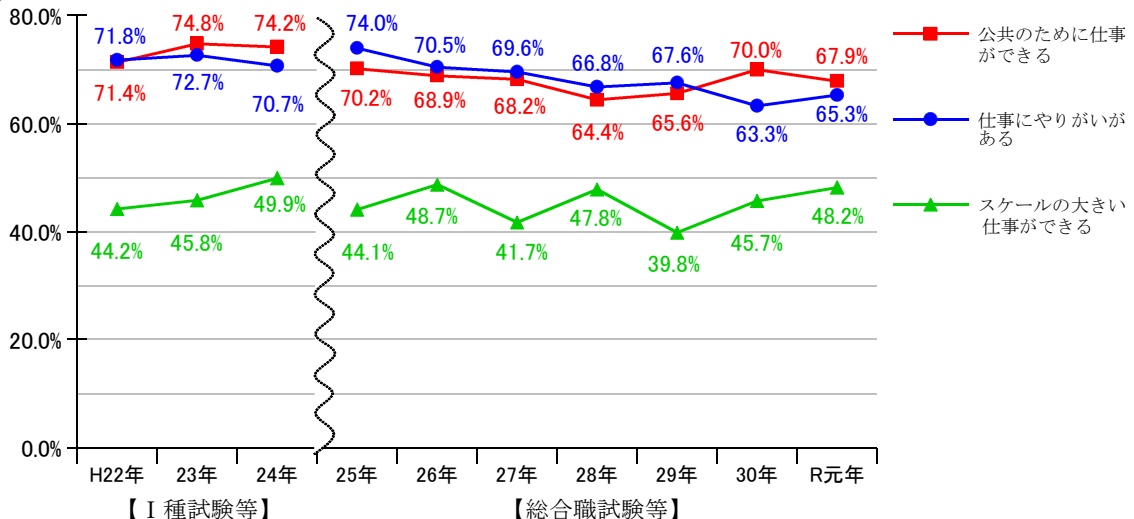
- ・総合職試験：「工学」「数理学・物理・地球科学」「化学・生物・薬学」「農業科学・水産」「農業農村工学」「森林・自然環境」
- ・総合職試験以外の試験：「技術」「技術系」等

問1 国家公務員になろうとした主な理由は何ですか。（三つ選択） (N=772)



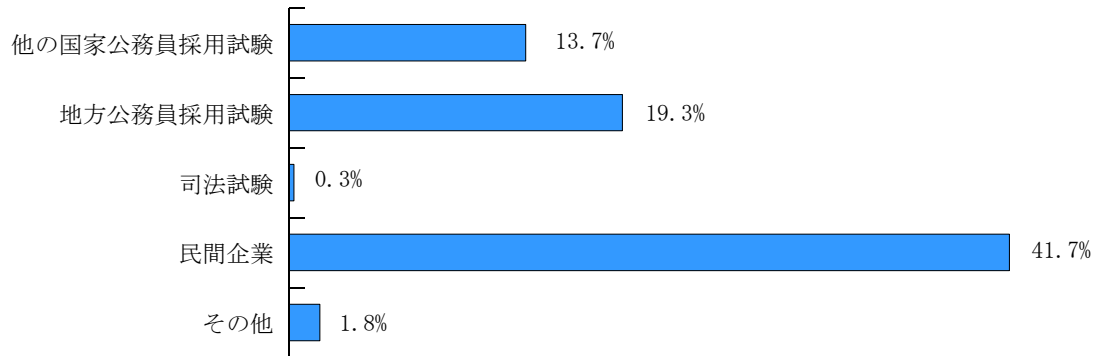
「公共のために仕事ができる」「仕事にやりがいがある」「スケールの大きい仕事ができる」と回答した者が上位3つを占めています。特に「公共のために仕事ができる」「仕事にやりがいがある」は、例年、約7割の者が選択しています。

[参考]



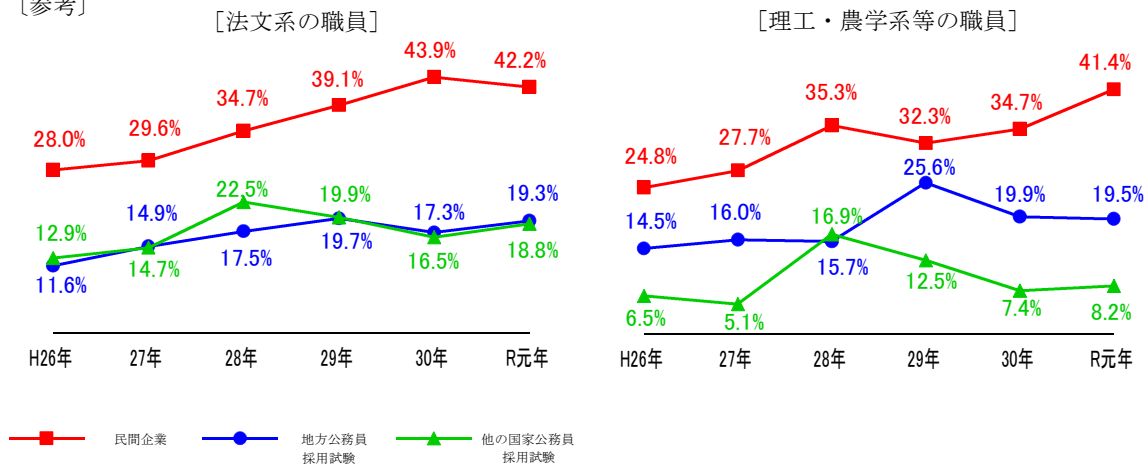
問2 採用された試験以外で、合格又は内定したものはありますか。(複数回答)

(N=772)



全体では、「民間企業」が41.7%、「地方公務員採用試験」が19.3%、「他の国家公務員採用試験」が13.7%となっています。「民間企業」が5年前に比べて、法文系の職員は14.2ポイント増加、理工・農学系等の職員は16.6ポイント増加しています。

[参考]

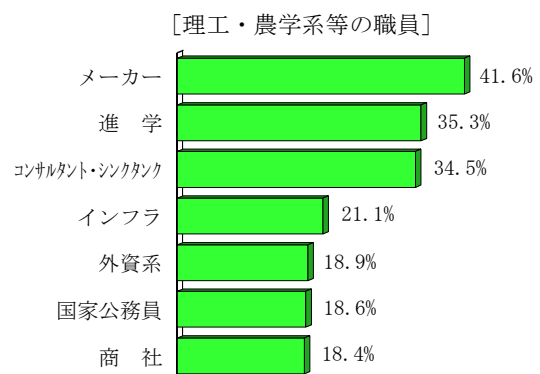
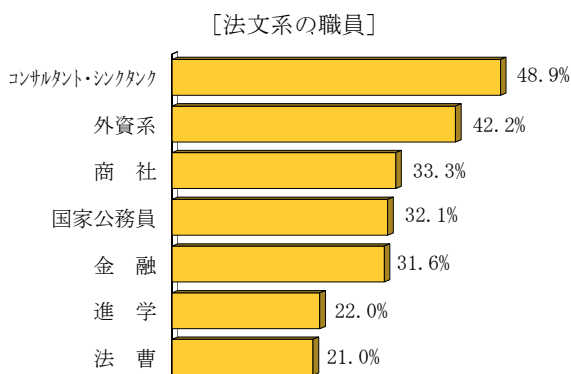


問3 自分の周りの優秀な学生はどのようなところに就職しましたか。(三つ選択)

<就職先の上位>

(N=405)

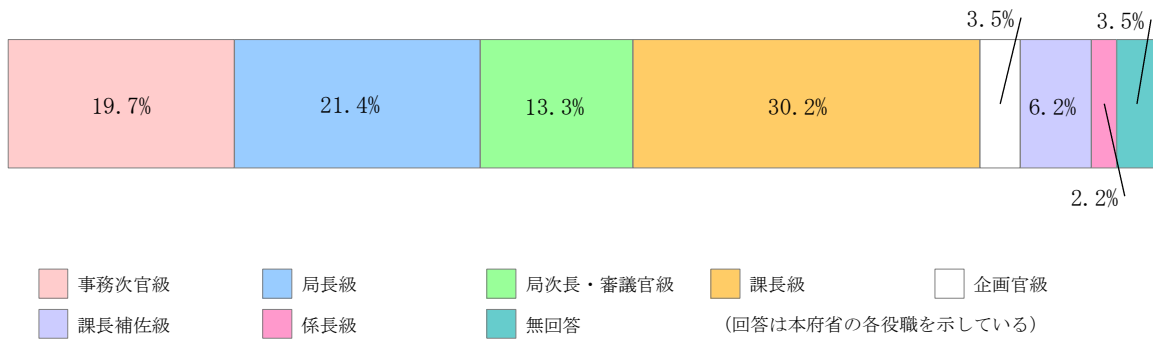
(N=365)



法文系の職員では「コンサルタント・シンクタンク」「外資系」「商社」、理工・農学系等の職員では「メーカー」「進学」「コンサルタント・シンクタンク」が上位となっています。

問4 将来どこまで昇進したいと思いますか。（一つ選択）

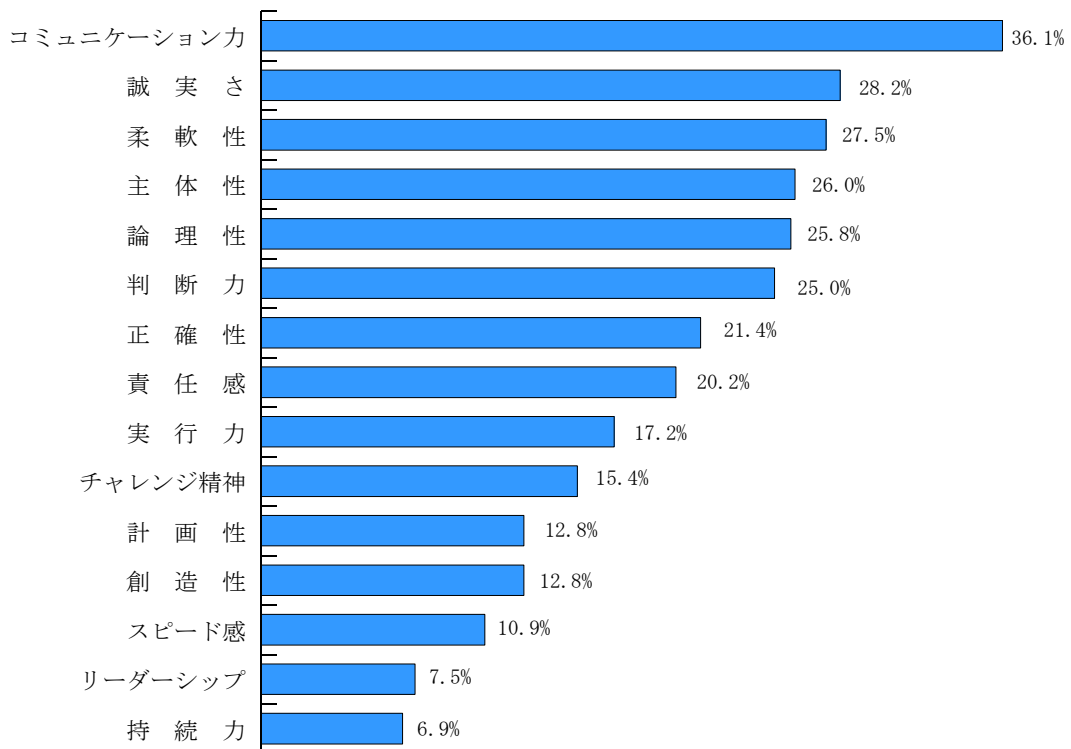
(N=772)



「事務次官級」が19.7%、「本府省の局長級」が21.4%、「本府省の課長級」が30.2%となっており、本府省の局次長・審議官級以上に昇進したい者が54.4%となっています。

問5 どのような資質・能力を重視して仕事をしていきたいですか。（三つ選択）

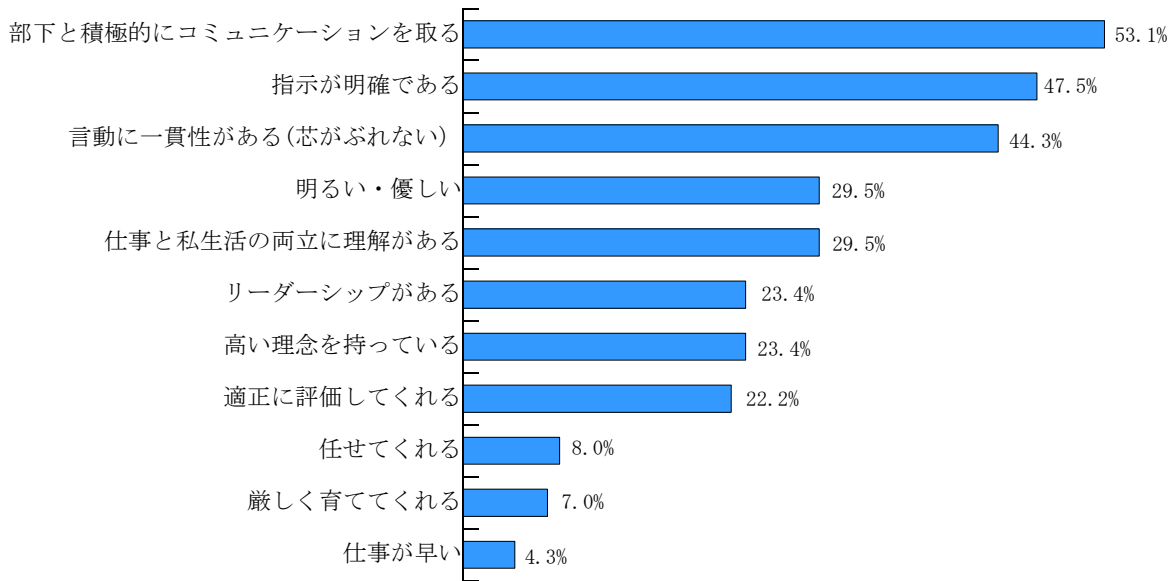
(N=772)



「コミュニケーション力」が36.1%と高く、昨年に比べ「誠実さ」が5.9ポイント増加して2番目になっており、「柔軟性」「主体性」「論理性」についても約3割の者が選択しています。

問6 どのようなタイプの上司の下で仕事がしたいですか。（三つ選択）

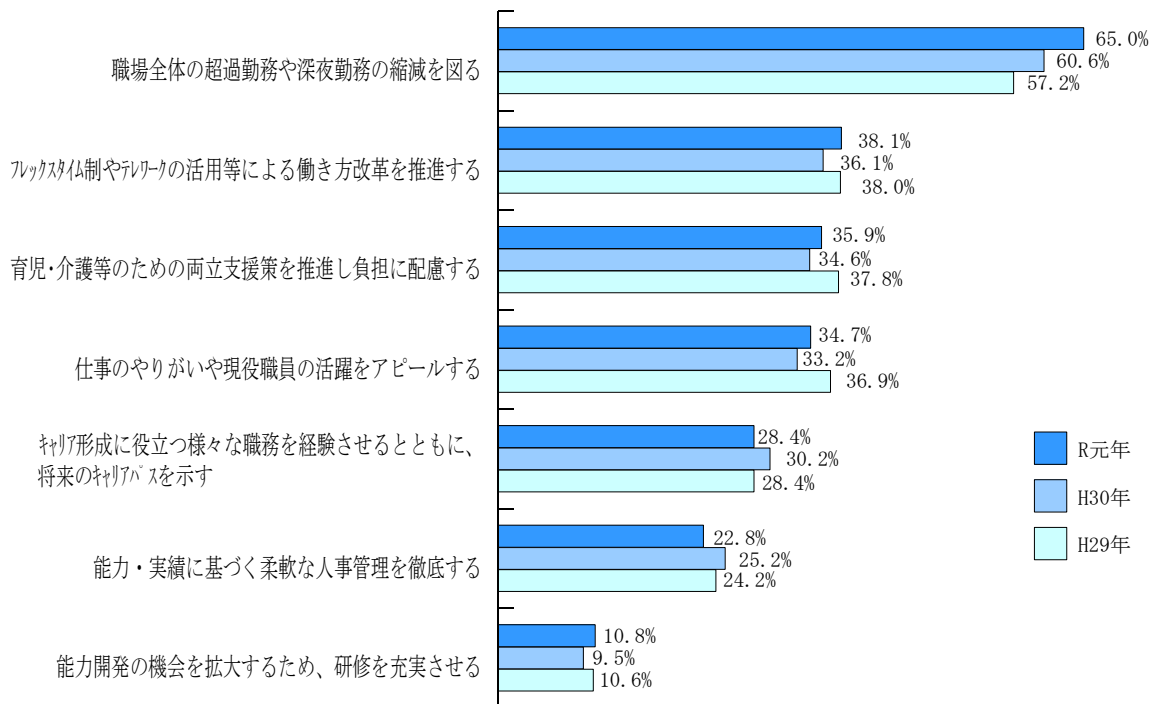
(N=772)



「部下と積極的にコミュニケーションを取る」タイプの上司が53.1%と高く、「指示が明確である」「言動に一貫性がある(芯がぶれない)」についても、4割を超える者が選択しています。一方、「厳しく育ててくれる」は7.0%と低くなっています。

問7 どのような取組をより進めると、公務の魅力が向上し、多様な有為の人材の獲得につながるとお考えですか。（複数回答）

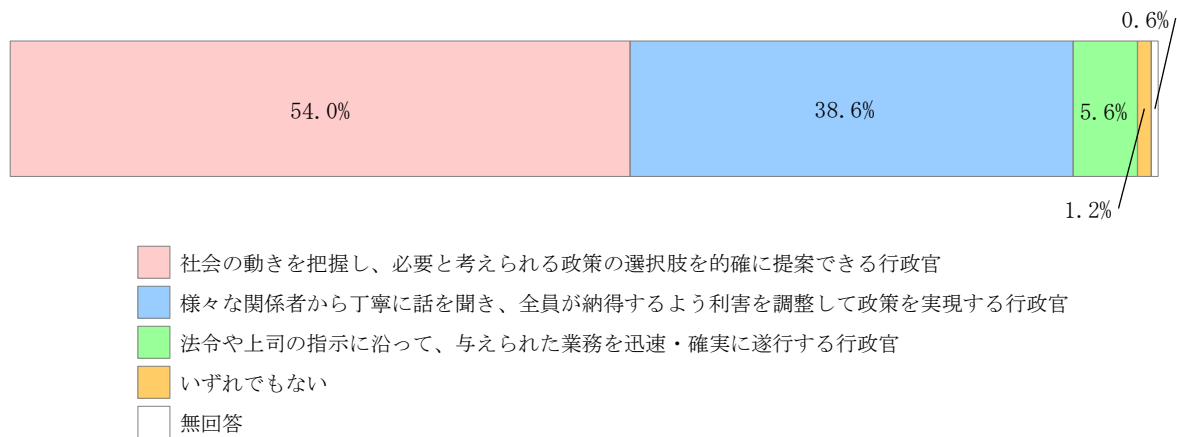
(N=772)



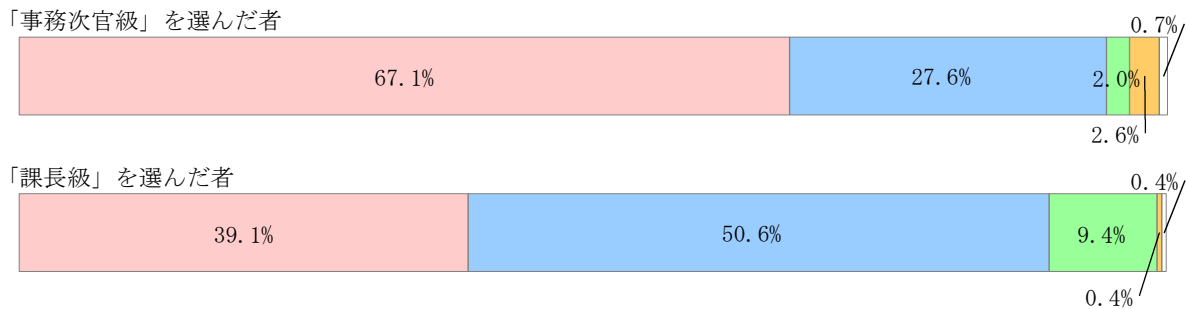
「職場全体の超過勤務や深夜勤務の縮減を図る」が65.0%と最も高くなっており、次いで「フレックスタイム制やテレワークの活用等による働き方改革を推進する」が38.1%となっています。

問8 あなたがなりたい行政官のイメージは、何ですか。（一つ選択）

(N=772)



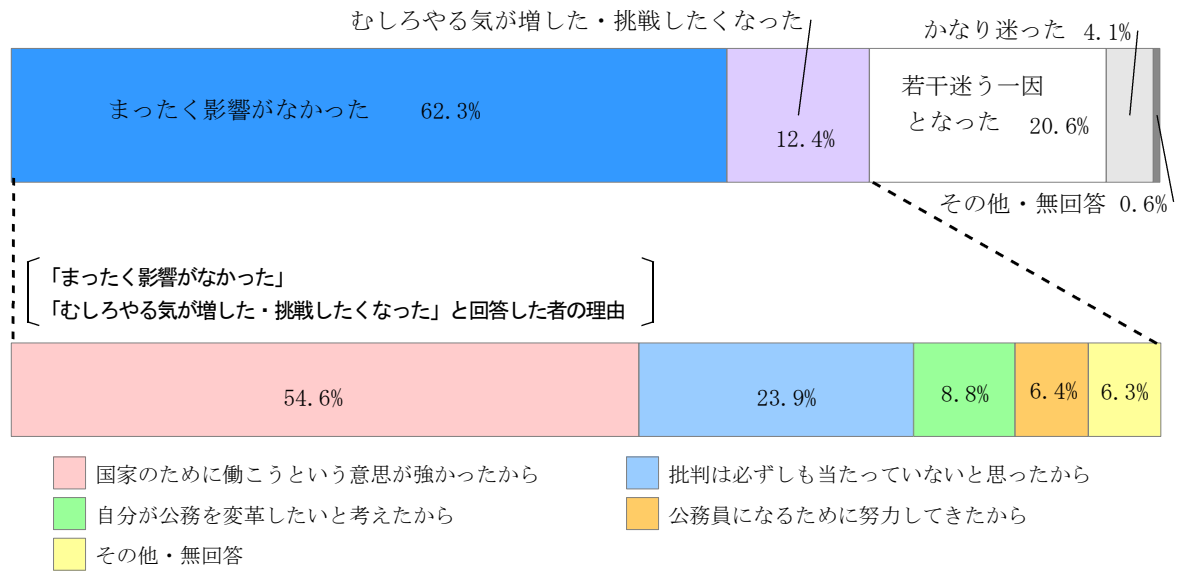
問4の『将来どこまで昇進したいと思いますか』において「事務次官級」又は「課長級」を選んだ者の回答



「社会の動きを把握し、必要と考えられる政策の選択肢を的確に提案できる行政官」が54.0%と最も高く、次いで「様々な関係者から丁寧に話を聞き、全員が納得するよう利害を調整して政策を実現する行政官」が38.6%となっています。

また、問4の『将来どこまで昇進したいと思いますか』において、「事務次官級」を選んだ者は「社会の動きを把握し、必要と考えられる政策の選択肢を的確に提案できる行政官」が67.1%と高く、一方、「課長級」を選んだ者は「様々な関係者から丁寧に話を聞き、全員が納得するよう利害を調整して政策を実現する行政官」が50.6%と高くなっています。

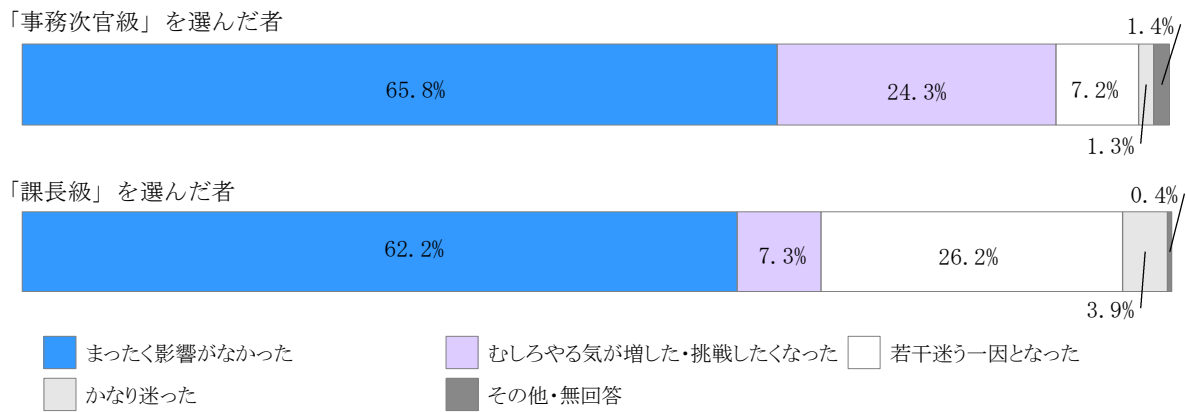
問9 行政・公務員に対する厳しい批判が続いていますが、このような批判は採用に至る意思決定に影響を与えましたか。（一つ選択） (N=772)



「まったく影響がなかった」が62.3%、「むしろやる気が増した・挑戦したくなった」が12.4%となっています。

「まったく影響がなかった」と「むしろやる気が増した・挑戦したくなった」に回答した者にその理由を聞いたところ、「国家のために働こうという意思が強かったから」が54.6%、「批判は必ずしも当たっていないと思ったから」が23.9%となっています。

問4の『将来どこまで昇進したいと思いますか』において「事務次官級」又は「課長級」を選んだ者の回答



また、問4の『将来どこまで昇進したいと思いますか』において、「事務次官級」を選んだ者は「むしろやる気が増した・挑戦したくなった」が24.3%となっており、一方、「課長級」を選んだ者は「若干迷う一因となった」が26.2%となっています。